

〔普及の現場から〕

女性力で活性化！～勝英酪農組合女性部の勉強会～

勝英農業普及指導センター 馬場裕介

1. はじめに

昨今の飼料高や燃料高、その一方で経費上昇分を乳価へ反映できない状況など、厳しい酪農情勢が続いています。その中で、「女性のもっと酪農の現場を元気にしよう」ということで、地域の女性たちが行っている勉強会について紹介したいと思います。



勝英酪農組合女性部のみなさん

2. 酪農組合女性部勉強会の経緯

勉強会のきっかけは、他県への視察の際、そこで出会った酪農現場の女性達から受けた刺激からでした。以後 2006 年 5 月から年に数回のペースで行われています。内容は、女性が日頃の酪農作業に関わる上で重要な項目を中心に、畜産関係機関がお手伝いをし、勉強会を行っています。



勉強会の様子

3. 勉強会の内容

2ヶ月に1回のペースで勉強会は開催されています。講師は関係機関が連携し、おからくからは最近の酪農情勢について、家畜保健衛生所からは乳質改善について、普及指導センターからは仔牛の哺育・育成について情報提供を行っています。毎回みなさんの熱心な姿勢に、勉強会にも熱が入ります。

勉強会の内容（2008年）

3月	・みなさんの理想の仔牛とは？ (ワークショップ)	(普及)
4月	・ミルクカー装着までの時間 「1分～1分半」の検証 ・みなさんの理想の仔牛とは？ (まとめ)	(家保) (普及)
7月	・最近の酪農情勢について	(おからく)
8月	・バルク乳検査とその対策 ・仔牛が固形飼料を食べる ということ	(家保) (普及)

4. みんなでワークショップ！

3月、4月の勉強会でワークショップを行いました。その内容について紹介したいと思います。

ワークショップとは、参加者自身が主体となり討論する中で、心の中に感じていた事や新しいアイデアを具体的にまとめていく手法です（大ざっぱに言うと）。

今回は「今までで一番お気に入りの仔牛とは？」をテーマに実施しました。

まず、みなさんに「自由奔放」、「質より量」ということで、テーマについて思い浮かぶ事を付箋に書いてもらいます。その後、記入した付箋をグループ分けし、そこからみなさんが考えているアイデアを具体的にまとめていきました。

まとめたアイデアから、みなさんが考える「お気に入りの仔牛＝理想の仔牛」とは、①病気をせず、②ミルクやエサをよく飲み・食べ、③増体がよいこと。①～③のサイクル（幸せのトライアングルと名付けました）がうまく回り、さらに「人に慣れた仔牛」である

という事でまとまりました。

参加したみなさんからは、「そうそう、こういう仔牛」、「こんな仔牛にしないと」など、女性ならではの活発な意見で盛り上がりを見せました。



みんなで考え中



いろいろなアイデアを出してもら



まとめた事をみんなで検討

5. 私事ではありますが・・・

私が勝英地域に赴任して2年目、農業普及指導員になって2年目、つまり初めての赴任地で初めての普及員を経験しているのがこの勝英地域です。当初は畑違いの部署でとまどいもありましたが、酪農家の奥さんたちにしごかれ(?)、何とか普及員らしく物を言えるようになりました。2年目になってすぐ、「普及員らしくなったなあ〜」と農家の軒先で言われたときは、職場に帰って涙が出るほど嬉しさを感じた事を覚えています。まだまだ勉強の日々が続きますが、先行投資と考えて、温かく、たまには厳しく鍛えて欲しいと思っています。



酪農家の奥さんと牛のモニタリング

6. 最後に

冒頭でも申し上げましたが、酪農だけではなく畜産業界全体で厳しい状況が続いています。その中で、「どねえかせにやいけん」と思われ活動されている勝英酪農組合女性部の活動を、今後も関係機関と連携しながらバックアップしていきたいと考えています。